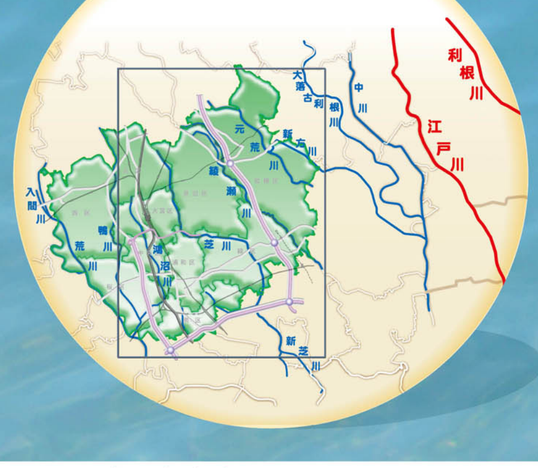
さいたま市 Saitama City Flood Hazard Map
埼玉市水災危害地図 사이타마시 홍수 해저드 맵

洪水ハザードマップ

利根川・江戸川 Tone River / Edogawa River
利根川/江戸川　　도네가와・에도가와



さいたま市 総務局危機管理部防災課
■TEL 048-829-1126（直通）　■FAX 048-829-1978
■E-mail bosaika@city.saitama.lg.jp

発行　平成30年3月

この洪水ハザードマップは、利根川または江戸川が大雨によって氾濫した場合、住民のみなさんの避難に役立つように作成しました。

●浸水の範囲及び浸水深は、堤防が決壊した場合の予測結果に基づき、利根川と江戸川、それぞれの洪水浸水想定を重ね合わせた最大の状況を想定しました。

●浸水想定は、平成29年7月20日に国土交通省が指定・公表した洪水浸水想定区域に基づいています。**想定される最大規模の降雨は、利根川流域、八斗島上流域の「72時間の総雨量が491mm」です。**

●マップでは、浸水深が50cm未満の区域から20m未満の区域までの5つの区域で色分けしています。

●あなたの住んでいる地域の浸水深を確認し、浸水想定区域以外の指定緊急避難場所と安全に移動できるルートを確認してください。浸水の状況が変化する場合もあるので、複数の指定緊急避難場所、複数の避難ルートを考えておきましょう。

●**市から、「避難勧告」や「避難指示(緊急)」などが発令された場合、速やかに浸水想定区域以外へ避難してください。**なお、避難の準備を呼びかけるために「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された場合は、高齢者や体の不自由な方などは避難を開始する目安としてください。

This flood hazard map was created to assist the residents' evacuation in case of flood in Tone or Edogawa Rivers. The scope of inundation and its height are simulated on the maximum level combining the simulated flood inundation levels of Tone and Edogawa Rivers, based on the predicted result of dike burst. The simulation of inundation is based on the flood inundation simulation zones designated and published by the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism on July 20, 2017. **The heaviest simulated rainfall is "total rainfall of 491mm in 72 hours" for the Tone River basin and the upriver region of Yattajima.** The map shows five zones in different colors from the one with the inundation height of less than 20cm to less than 20m. Check your area's inundation height and the route that takes you safely to the designated emergency evacuation site outside the inundation simulation zone. The inundation level is subject to change; we encourage you to think of multiple designated emergency evacuation sites and evacuation routes. **When the city issues an "evacuation advisory" or an "(urgent) evacuation order", evacuate outside the inundation simulation zone immediately.** Meanwhile, when an "evacuation preparation / evacuation start for the elderly and the disabled" is issued, use it as an indication for the elderly and the disabled to start evacuating.

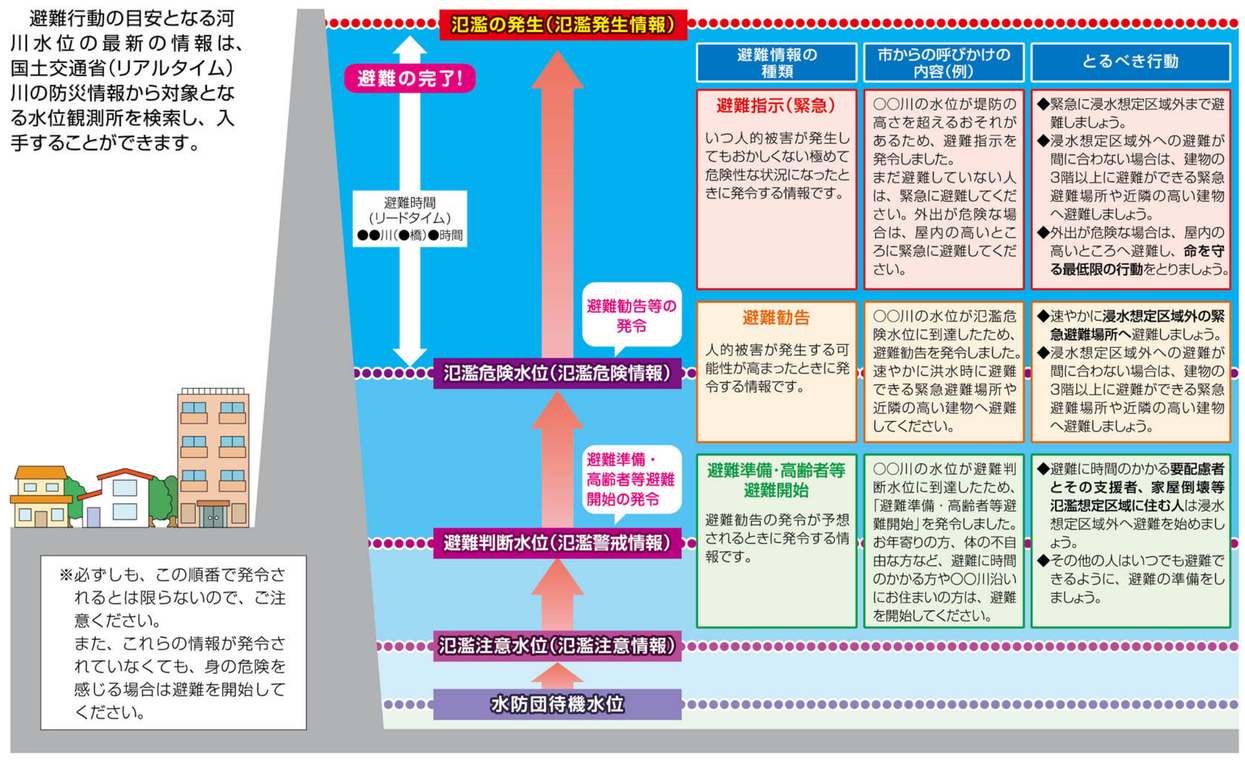
该洪水灾害危害地图是在利根川或者江户川因大雨而发生泛滥的情况下，有助于居民各位的避难而制作的。浸水的范围以及浸水深度是基于堤防溃决的情况下的预测结果，对分别与利根川和江户川的洪水浸水设想重合后的最大状况做出了设想。浸水设想基于平成29年7月20日国土交通省指定/公开的洪水浸水设想区域。**设想的最大规模的降雨为利根川流域、八斗岛上流域的【72小时的总雨量491mm】。**在图中，用不同颜色表示浸水深度为从50cm未满的区域到20m未满的区域的五个区域。请您确认您所居住的区域的浸水深度，并且确认浸水设想区域以外的指定紧急避难场所和能够安全移动的途径。浸水的状况有可能发生变化，请事先考虑好多个指定避难场所和多个避难途径。**在由埼玉市发布【避难劝告】和【避难指示（紧急）】等的情况下，请迅速向浸水设想区域以外避难。**另外，在为了呼吁进行避难准备的【避难准备/高龄人士等避难开始】发布的情况下，请高龄人士和身体有障碍的人士等将其作为开始避难的基准。

이 홍수 해저드 맵은 도네가와 또는 에도가와가 호우에 의해 범람한 경우, 주민 여러분들의 피난에 도움이 될 수 있도록 제작되었습니다. 침수 범위 및 침수심은 제방이 붕괴된 경우의 예측 결과를 바탕으로 도네가와와 에도가와 각각의 홍수 침수 를 더한 최대의 상황을 상정했습니다. 침수 상정은 2017년 7월 20일에 국토교통성이 지정 공표한 홍수 침수 상정 구역을 바탕으로 합니다. **상정되는 최대 규모의 강우는 도네가와 유역, 얏타지마 상류역의 「72시간 총강우량이 491mm」입니다.** 맵은 침수심이 50cm 미만인 구역에서 20m 미만인 구역까지의 5구역으로 분류되어 있습니다. 당신이 살고 있는 구역의 침수심을 확인하고 침수 상정 구역 이외의 지정 긴급 피난 장소와 안전하게 이동할 수 있는 경로를 확인하십시오. 침수 상황이 변화하는 경우도 있으므로, 여러 지정 긴급 피난 장소, 여러 피난 경로를 생각해 둡시다. **「시에서 「피난 권고」와 「피난 지시(긴급)」 등이 발령되면 신속하게 침수 상정 구역 외로 피난하십시이오.** 또한 피난 준비를 촉구하기 위해 「피난 준비・고령자 등 피난 시작」이 발령된 경우는, 고령자나 장애인분 등은 피난을 시작하는 기준으로 삼으십시오.

避難情報の伝達

避難情報の種類

避難行動の目安となる河川水位の最新の情報は、国土交通省（リアルタイム）川の防災情報から対象となる水位観測所を検索し、入手することができます。



※必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。
また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

避難の時の注意点

浸水想定区域外への早めの避難が基本です。

正確な情報収集と自主的避難を

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。

高齢者などの避難に協力を

高齢者や子ども、障害者など要配慮者は、早めの避難が必要です。周囲の方々は避難に協力しましょう。

自動車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、原則としてやめましょう。また、堤防や道路に自動車を放置すると、水防活動の妨げになりますのでやめましょう。

もしも、逃げ遅れたら

近くの丈夫な建物の三階以上に避難して救助を待ちましょう。住宅の二階部分でも場所によっては危険な場合があります。

浸水場所での避難方法

●氾濫水は50cmくらいの深さでも、勢いが強いため歩くのが困難な場合があります。緊急避難として、高い堅牢な建物にとどまったり、高い所での救助を待ちましょう。

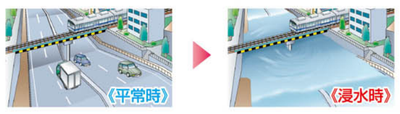
●はだしや長靴は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。

●氾濫水は茶色く濁っており、水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

●高齢者などは背負いましょう。子どもは浮き袋などを利用して、安全を確保して避難しましょう。

地下道などの注意を要する場所

さいたま市内には道路などの立体交差部が数多くあります。とくに、浸水時などに水深が大きくなると予想される地下道などは、避けて避難行動をとることが必要です。



地下空間の危険性

●地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。

換気口や採光窓等、思わぬところから水が入ってくることがあります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。

●地下室では外の様子がわかりません。

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報等に注意が必要です。また、外の様子に変化があったときは地下室内の人に知らせましょう。

●浸水すると停電するおそれがあります。

停電すると電灯が消えて真っ暗になります。なお、エレベーターは使えません。

●水圧でドアは開きません。

ある程度浸水すると、外開きでも内開きでも、ドアを開けることができなくなります。

情報の入手

気象庁が発表する注意報・警報

種　類	発表の時期
大雨注意報	大雨によって、災害が起こるおそれがある場合。
大雨警報	大雨によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。
洪水注意報	洪水によって、災害が起こるおそれがある場合。
洪水警報	洪水によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や温帯低気圧により大雨になると予想される場合。
記録的短時間大雨情報	大雨警報が発表されているときに、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測または解析した場合。※さいたま市の場合は１時間の雨量が100mm以上

※大雨と洪水の注意報・警報の発表基準は平成29年７月に見直され、大雨警報（浸水害）・大雨注意報の発表基準に「表面雨量指数」が導入されました。また、洪水警報・注意報の発表基準に導入されている「流域雨量指数」は精緻化されました。大雨と洪水の注意報・警報に適用される発表基準や各雨量指数の基準値に関しては、気象庁ホームページをご確認ください。

最新の注意報・警報を入手

「いつもより強い雨だ」と感じたら、注意報や警報が「発表されている」のか「発表されていない」のかを、すぐに確認しましょう。

■気象庁ホームページ
気象警報・注意報へのアクセス方法（※）
ホーム（トップページ）で「天気」のタブ（水色）を選択。
↓
「主なコンテンツ」の「気象警報・注意報」を選択。
↓
全国地図から「埼玉県」の地図を選択。
↓
警報・注意報の発表一覧表（市町村単位）が表示される。一覧表から「さいたま市」を選択。
↓
現在の警報・注意報の発表状況が表示される。警報・注意報が発表中の場合、今後の予想も表示される。

※気象庁関係資料「気象警報・注意報をより見やすくより分かりやすく」より一部抜粋して作成

※パソコン、スマートフォン、どちらも同じ方法でアクセスできます。

■テレビで入手
リモコンの「ボタン」を押すとデータ放送画面が表示されます。
次に、気象情報のメニューに応じたリモコンのカラーボタン（４色ボタン）を押します。

■スマートフォンで入手
Yahoo! JAPAN 防災速報
あらかじめアプリをインストールしておくことで、気象警報や地震情報などが確認・通知されます。
すべてのサービスを利用するためには、Yahoo! JAPAN ID の登録が必要です。

気象情報

●雨の強さと降り方の目安

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

予報用語（1時間雨量）	やや強い雨（10～20mm）	強い雨（20～30mm）	激しい雨（30～50mm）	非常に激しい雨（50～80mm）	猛烈な雨（80mm以上）
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（※）	車の運転は危険	

※ハイドロプレーニング現象

災害時に備える防災知識をインターネットやアプリで入手

■さいたま市ホームページ……（パソコン）http://www.city.saitama.jp/index.html
■国土交通省（リアルタイム）川の防災情報……（パソコン）http://www.river.go.jp/
（携帯電話）http://i.river.go.jp/
■気象庁ホームページ……（パソコン）http://www.jma.go.jp/
■利根川上流河川事務所……（パソコン）http://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/
■江戸川河川事務所……（パソコン）http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/
■荒川上流河川事務所……（パソコン）http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/
■水位情報システム……http://www.flood-info.city.saitama.jp/JP/
■Yahoo! 天気アプリ……河川状況ライブカメラ画像（アプリ内の河川状況から見ることができます）
■事前登録で情報メールを受信（事前に、さいたま市または埼玉県のホームページにて詳細等を確認の上、登録してください）
さいたま市防災行政無線メール……登録者のパソコンや携帯電話に防災行政無線の放送内容を配信
埼玉県防災情報メール……登録者のパソコンや携帯電話に防災関連情報を配信

川の防災情報二次元コード

地域を守るために

自主防災組織の活動

災害による被害を最小限におさえるには、まず自分と家族が無事であることが大切となります。それから地域住民が協力して火災の初期消火や、負傷者等の救出救護などを行うことが重要となります。そのために自主防災組織が必要となります。

この自主防災組織とは、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う団体のことをいい、さいたま市では自治会を単位として結成されています。日頃から防災知識の普及、地域の安全確認、防災資機材の備蓄、自主防災訓練などを行い、災害時には初期消火、救出救護、安否確認、炊き出しなどを地域で協力して行います。

●近隣と協力し救助活動
- 救助を求める通報を行う。
- 自主防災組織の活動に協力する。
- ラジオ等により情報を確認する。

●自主防災組織に協力し、秩序ある避難生活
- 助け合いの心を持ち、協力し合う。

●所定の場所に参集
- 情報班により地域内の被害情報を収集する。
- 消火班による初期消火活動を行う。
- 救出、救護班による救出活動を行う。
- 負傷者の応急救護、救護所への搬送を行う。
- 地域の事業所の協力を得る。
- 困難な場合は消防署等へ要請する。

●市と協力し避難所の運営
- 秩序ある避難所の運営を行う。
- 住民どうしの役割分担、要配慮者に対する配慮。

要配慮者への協力

●高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には

高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどしてしっかり援護します。傷病者には複数の人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。

外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導します。

●からだの不自由な人には

それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず複数人で協力し、階段を上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

●目の不自由な人には

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で、誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。

●耳の不自由な人には

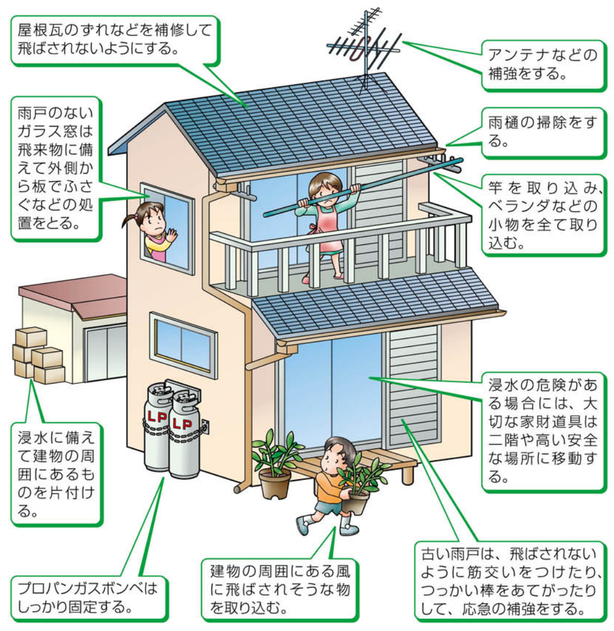
話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、手のひらに書く、身ぶりなどで分かりやすく内容を伝えましょう。また、携帯電話やスマートフォンの文字入力も有効です。

日頃からの心がけ

風水害に備えておくべきこと

台風や集中豪雨はある程度予測できる災害です。情報を入手し、しっかりした準備をしておきましょう。

●建物などの事前準備



●家族の準備

- 必要最小限の非常用持ち出し品を準備しましょう。（地震対策としても日頃からの準備が大切です。）
- 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池も準備しましょう。
- 生活用水を貯めおきしましょう。（飲料水は１人１日3リットルが目安です。）
- 指定緊急避難場所までのルートをあらかじめ決めておき、安全に通行できるかを実際に歩いて確認しておきましょう。

※外出している家族が、交通機関のマヒなどで帰宅できない場合もあります。離ればなれになってしまった場合に備え、連絡方法や避難場所・集合場所を日頃から十分話しあっておきましょう。

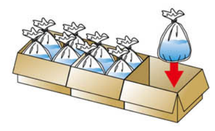
各家庭で備えましょう

●簡単な土のうの作り方

水深が浅い段階なら、家庭にあるごみ袋、レジャーシート、プランターなどを活用した応急処置で対処が可能です。

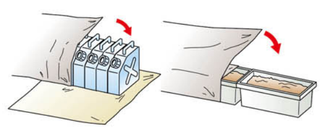
《ごみ袋を利用》

大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水（ふろの残り水などが便利）を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると、強度が増し、積み重ねることもできます。



《シートを利用》

土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。



防災関係機関一覧

名　称	住　所	電話番号
市役所	浦和区常盤6-4-4	829-1111
北部建設事務所	大宮区大門町3-1	657-1151
南部建設事務所	中央区下落合5-7-10	859-1151
西区役所	西区西大宮3-4-2	622-1111
北区役所	北区宮原町1-852-1	653-1111
大宮区役所	大宮区大門町3-1	657-0111
見沼区役所	見沼区堀崎町12-36	687-1111
中央区役所	中央区下落合5-7-10	856-1111
桜区役所	桜区道場4-3-1	858-1111
浦和区役所	浦和区常盤6-4-4	825-1111
南区役所	南区別所7-20-1	838-1111
緑区役所	緑区大字中尾975-1	874-1111
岩槻区役所	岩槻区本町3-2-5（ワッツ東館3・4階）	790-0111
消防局	浦和区常盤6-1-28	833-1231
水道局	浦和区常盤6-14-16	832-1111
さいたま県土整備事務所	南区沼影2-4-7	861-2495
大宮警察署	大宮区北袋町1-197-7	663-0110
大宮東警察署	見沼区大字風渡野35-1	682-0110
大宮西警察署	西区三橋6-645	625-0110
浦和警察署	浦和区常盤4-11-21	825-0110
浦和東警察署	緑区東浦和7-42-1	712-0110
浦和西警察署	中央区上峰3-4-1	854-0110
岩槻警察署	岩槻区大字岩槻5106	757-0110
利根川上流河川事務所	久喜市栗橋北2-19-1	0480-52-3952
荒川上流河川事務所	川越市新宿町3-12	049-246-6371
江戸川河川事務所	野田市宮崎134	04-7125-7311
大宮国道事務所	北区吉野町1-435	669-1200
NTT		113
東京電力埼玉総支社	中央区本町西4-17-10	0120-995-442
東京ガス埼玉支社	南区別所7-1-1	0570-002211
東彩ガス	春日部市大場202	0120-1031-24

こちらの防災関係機関一覧は参考として記載しております。災害発生時にお問い合わせができるとは限りません。災害情報については避難情報の伝達等の項目を御確認ください。

わが家の防災メモ

わが家の指定緊急避難場所１		家族の集合場所	
わが家の指定緊急避難場所２		災害時の連絡先	

家族の連絡先	名前	血液型	電話番号	会社・学校名	会社・学校の連絡先

災害時の連絡方法

「171」災害用伝言ダイヤル

*「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
*録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
*提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。
*詳しくは…NTT東日本災害用伝言ダイヤル
http://www.ntt-east.co.jp/saigai/

伝言の録音方法
171にダイヤルする
（ガイダンスが流れます）
録音の場合 1
（ガイダンスが流れます）
XXX XXX-XXXX

伝言の再生方法
171にダイヤルする
（ガイダンスが流れます）
再生の場合 2
（ガイダンスが流れます）
XXX XXX-XXXX

被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

携帯電話　災害用伝言板サービス

*震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・スマートフォンを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。
*それぞれの携帯電話・スマートフォンの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。
*他社携帯・スマートフォンおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

他社携帯・スマートフォンおよびパソコンからの安否情報の確認方法
NTTドコモ……http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au by KDDI……http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク……http://dengon.softbank.ne.jp/
ワイモバイル……http://dengon.ymobile.jp/info/

非常持ち出し品と備蓄品

大規模災害時、被災地に救援物資が届くまでには、おおむね3日かかるといわれています。非常用持ち出し品は、必要最小限のものを厳選し、一つにまとめてすぐに持ち出せる場所に保管しておきましょう。在宅避難の際に、災害から復旧するまでの数日間を支える備蓄品を分けて用意しましょう。特に、食料や飲料水などを普段から多めに常備し、利用しながら買い足すことを繰り返す「ローリングストック」を心がけましょう。

- 最低3日分の食料と飲料水（1人1日3リットル）※推奨1週間分
- 高齢者や乳幼児など、家族構成に応じて特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。
- 非常用持ち出し品は保存状態や使用期限などを定期的に点検し、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

チェックリスト

非常持ち出し品		備蓄品	
非常食		食料品（缶詰、レトルト食品、ドライフーズなど）	
飲料水		食料品（調味料、スープ、みそ汁など）	
携帯ラジオ（予備の電池）		食料品（チョコレート、あめなど）	
懐中電灯（予備の電池・電球）		水（一人あたり1日３リットル）	
ヘルメット・防災ずきん		燃料（卓上コンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど）	
救急医薬品		毛布、タオルケット、寝袋など	
常備薬（お薬手帳）		洗面用品	
貴重品（預貯金通帳、印鑑など）		鍋、やかん	
現金		簡易食器（わりばし、紙皿、紙コップなど）	
健康保険証のコピー		ラップ、アルミホイルなど	
住民証のコピー		ウエットティッシュ、トイレットペーパーなど	
ろうそく・ランタン		マスク、使い捨てカイロなど	
ライター（マッチ）		簡易トイレ	
ナイフ、缶切り、栓抜き		予備のメガネ、補聴器など	
ティッシュ（ウエットタイプも）		工具類（ロープ、バール、スコップなど）	
タオル			
ビニール袋			
上着・下着			
軍手			
シート			
携帯電話の予備バッテリー			
生理用品			